

特集

都市空間をハンギングバスケットで飾る〔3〕

景観に似合う 花飾りの色と形

花・色・デザイン研究所
フラワーカラーリスト

荏原温子 Haruko Ehara

モンパルナスで見たゼラニューム

2005年、景観法が施行されました。景観法の基本理念には、「良好な景観は、国民共通の資産である」と書かれています。ハンギングバスケットやコンテナガーデンのような花飾りも、まちの景観要素のひとつであることを認識し、景観に似合う色彩やデザインを考えることは、とても大切なことです。

パリに見る「まちの色」

今年の6月、フランス・パリへ、薔薇の季節に訪れました。

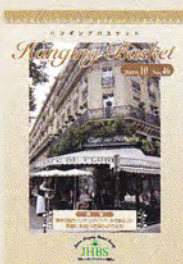
フランスは世界的にも景観先進国といわれています。街角の建物ひとつをとっても、古い建物が周囲と調和して、まち全体が博物館のようにさえ感じました。明るいベージュで統一されたまちなみは、その明るさがゆえに、古くても重厚になりすぎず、女性好みの優雅な雰囲気漂わせています。世界中の女性が憧れる街パリ、その人気の背景には、この「まちの色」が大きく関係していると実感しました。

パリの園芸店に売られているテラコッタの鉢も、イタリアのテラコッタのような鮮やかな色ではなく、パリのまちなみに似合う彩度の低い白っぽいテラコッタでした。この鉢色を例にとっても、パリは、景観に似合う色が人々に自然に浸透しているのです（写真①）。

そんな身なりの整った現在のパリのまちなみは、なんと今から150

Hanging Basket 2010.10 No.46

表紙のことは 荏原温子



パリ6区サンジェルマン・デ・プレ、この界隈は、洗練されたショップが立ち並びお洒落なエリアとして知られています。その中でも、こちらの「カフェ・ド・フロール」は、老舗中の老舗の高級カフェ。文筆家や哲学者が通ったと言われ、ベルエポック時代からの姿のままのカフェです。

車を走らせていると、お店の名にふさわしく、カフ

エの植栽が目飛び込んできて、このカフェに立ち寄りたくなってしまうとも魅力的なお店です。

パリジェンヌの服装は、小粋なカジュアルな装いが多いのですが、このカフェに来ている人々は、スーツやワンピースの方が多く、生活レベルの高さを感じます。

パリでは、カフェのイスに座って歓談している人々までもが、まちの景観の一部になっていました。

CONTENTS

- 特集 2
都市空間をハンギングバスケットで飾る〔3〕 景観に似合う花飾りの色と形
- 新しい花材紹介 5
角田ナーセリー 編
- 公認講師から 6
長井栄子さん／福村満代さん
- 曆に学ぶ園芸作業 8
- 事務局だより 9
- こだわりショップ紹介～街を彩るお花屋さん 10
- ハンギングバスケット&コンテナレシビ
クリスマス・お正月バージョン 12
- 支部だより
栃木支部 吉谷桂子氏を迎えて講演会 14
京都支部 田辺カントリー倶楽部の花飾り 14
岐阜県支部 花フェスタ記念公園の花飾り 16
- 知っていますか？外来生物法 15